

## 大澤壽人遺作コレクションの受け入れについて

二〇〇六年八月十七日、神戸女学院は大澤壽文氏（大澤壽人先生ご長男）より、大澤先生の遺品資料の寄贈を受けました。

大澤壽人先生（一九〇七―一九五三）は戦前から欧米で活躍し、高い評価を受けていました。一九三九年から一九四一年までと一九四八年から一九五三年まで神戸女学院音楽学部で教鞭をとられ、主に音楽理論、作曲を担当されました。学校で教鞭をとられる傍ら、ラジオ歌謡の作曲をされるなど、音楽界で活躍されましたが、四六歳の若さで亡くなったため、没後、幻の存在になっていました。しかし大澤先生の作品は、近年注目されるようになり、CD化され、演奏会も開催されています。

受け入れの経緯は以下のとおりです。

大澤壽人先生のご遺族より学院に、先生の遺品類を神戸女学院に寄贈したいとの申し出がありました。

ご遺族側は他の機関に寄贈することも検討されたようですが、やはり大澤先生ご本人が神戸女学院を深く愛しておられたということから寄贈するなら神戸女学院しかないと考えられた結果のお申し出ということでした。

大澤先生の遺品資料の受け入れについて、二〇〇六年春頃、本学音楽学部卒業生の岡田晴美先生、生島美紀子先生からも是非受け入れてほしいとの要望が学院に出されました。これを受けて、二〇〇六年六月、音楽学部の教授会で、大澤先生の資料を受け入れたいという正式決定が出され、検討の末、図書館・史料室が受け入れることになりました。

先生の残された自筆楽譜をはじめ、手紙や日記、演奏会のプログラムやポスター、旅行用のトランク、特注の指揮棒ケース（指揮棒二本入り）などを含む、ダンボール箱約四三箱分の資料は神戸女学院史料室で保管することになりました。

今後、資料公開を目指して順次整理していく予定です。

（佐伯裕加恵）